年間授業計画　様式例

高等学校 令和５年度（１学年用） 教科　　芸術　　科目 音楽Ⅰ

教　科：　芸術　　科　目：　音楽Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　1 学年　　組～　　組

教科担当者：（A～H組：篠崎　）（　組：　　）（　組：　　）（　組：　　）（　組：　　）（　組：　　）

使用教科書：（ 音楽Ⅰ Tutti+　　教育出版　　）

教科　芸術　　の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに，意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり，芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い，豊かな情操を培う。

科目　音楽Ⅰ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
読譜をするために必要な楽典基礎を理解し、読譜ができるようになる。 正しい発声で歌唱表現ができる。	楽譜を読み解き、それを音楽表現に生かすことができるとともに、自らの表現意図をもって音楽表現ができる。 創作したリズムを楽譜に書き表し、演奏できる。	音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽の学習に取り組むことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
			歌	器	創						
1学期	ガイダンス 表現（歌唱・器楽）　鑑賞　楽典等	授業内容の説明と確認 読譜をするための基礎	○			○	正しい発声、リズム、音程で歌唱表現ができている。 曲想と音楽を形づくる要素とのかかわりを知覚し、楽曲の良さを味わって鑑賞できている。	○	○	○	6
	校歌や親しみやすい歌唱教材を使った表現	発声の基礎を身につけさせる。	○				楽典基礎を理解し、正確に読譜ができている。 曲想と音楽を形づくる要素とのかかわりを知覚し、楽曲の良さを味わって鑑賞できている。	○	○	○	6
	イタリア歌曲、カンツォーネ アカペラコーラス 鑑賞 実技テスト	イタリア語の発音と発声について知る。 各パートのはたらきを理解し、アカペラ（無伴奏）の合唱に取り組む。	○			○	イタリア歌曲の特徴を理解し、自らの表現意図をもって音楽表現ができている。 各パートのはたらきを理解し、アカペラコーラスという表現形態の良さを生かして歌唱表現ができている。	○	○	○	8
	リズムアンサンブル創作 読譜の基礎	音名、音価、拍子、リズム、速度			○		楽典基礎を理解し、創作できている。 意欲的に創作活動に取り組んでいるか。	○	○	○	8
2学期	リコーダー奏法基礎 リコーダー重奏 鑑賞、実技テスト	アルトリコーダー ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのアンサンブル		○		○	各パートのはたらきを理解し、全体の響きを大切にしながら器楽表現ができている。	○	○	○	12
	混声四部合唱 鑑賞	合唱の基礎を身につけさせる	○			○	全体の響きを感じながら、正しい発声、リズム、音程で歌唱表現ができている。	○	○		12
3学期	ミュージックベル 鑑賞	アンサンブル		○		○	全体の響きを感じながら、自らの役割を理解し、他者と協働してアンサンブル活動に取り組んでいる。		○	○	10
	ドイツ歌曲	ドイツ語の発音と世界の音楽について知る。	○			○	ドイツ歌曲の特徴を理解し、自らの表現意図をもって音楽表現ができている。 外国語での歌唱表現に意欲的に取り組んでいる	○		○	8
											合計 70